

米子市の幼保小連携・接続の現状と今後について

1 成果

- ・校区内で子ども同士、教職員同士の交流が盛んに行われるようになってきており、お互いの保育・教育についての理解が深まりつつある。
- ・オープンスクールに対する就学前施設や保護者の理解や協力が大きく、全市的な取組として定着してきている。
- ・1年生アドバイザーが就学前施設や小学校を訪問することで、経験の少ない1年生担任へアドバイスをしたり、指導力のある教員の有効な指導や支援を記録してアドバイス業務に活かしたりすることができている。また、就学前施設への訪問観察で集めた情報から、1年生での不適応が考えられる子の入学する小学校と一緒に支援の方法を考えることができている。

2 課題

- ・就学前施設の数が多く、また施設類型が様々あり、一斉に取組を進めることが難しい。
- ・全市的に校区外の就学前施設からの入学が多く、校区での幼保小連携・接続の取組を十分に活かすことが難しい。
- ・就学後に支援や配慮を要する園児であっても、小学校へ引継ぎが無い場合も見られる。また、小学校が、就学前施設から引き継いだ情報（就学支援シート等）を十分に活用できていないケースも見られる。
- ・就学前施設等から小学校へのスムーズな移行支援となる様々な取組を行っているが、就学後に不適応を起こす子どもが散見される。
- ・就学前施設の数が多く、1年生アドバイザーの訪問に時間的制約がある。
- ・1年生アドバイザーの役割は非常に大きいですが、適任者の確保が難しい。

3 今後の取組

- ・東こども園・啓成小学校、美保中学校区での取組を充実させ、全市に広げていく。
- ・校区ごとに実状は様々であるが、市としての幼保小連携・接続のモデルを検討していく。その際は、現在の取組を活用し、就学前施設にも学校にも負担が少なく、担当者が変わっても持続可能なものにしていきたい。
- ・就学に向けて、こども総本部と教育委員会が連携しながら、就学前施設や小学校、保護者への啓発と支援を行っていくとともに、研修の充実も図っていきたい。